

# 親子で楽しむ体験型プログラム

## ―土木の世界を広げる「オープンキャンパス土木学会」―

Hands-on program for parents and children to enjoy together  
-JSCE Open Campus to broaden the world of civil engineering-

川上 佐知

正会員

復建調査設計(株) 社会デザイン創発センターPPP推進室 室長  
土木広報センター 土木の魅力グループグループ長

### 土木のテーマパークを目指して

2024年7月20日(土)、本年度も土木学会本部(東京都新宿区四谷)にて、「オープンキャンパス土木学会2024」が開催された(写真1)。

このイベントは、毎年7月の第3土曜日に土木学会の館内を一般開放し、学会の専門委員会や関係団体が提供する多彩な体験型プログラムを通じて

て、地域の方々や学会関係者およびその家族に「土木」への関心と理解を深めていただくことを目的に開催している。主催はコミュニケーション部門土木広報センター土木の魅力グループで、2018年度に第1回を開催して以降、COVID-19拡大に伴う2年間の自粛を経て、本年度で5回目の開催となる。

イベントで体験できるプログラムは、コンクリートを練ってアクセサリを作ったり、土砂崩れの原理を模型による実演で学んだり、学会が保有する歴史資料や模型、写真などのコレクションを見学するなど、かなり多岐にわたる。「土木」といえば、現場での力仕事だけを思い浮かべる方も多いが、実際は、建設、エネルギー、景観デザイン、都市のプランニングなど扱っている分野は幅広い。そのようなさまざまな角度から土木へ関心を持つてもらえるよう、さながら土木のテーマパークをイメージし、毎年企画を練っている。



写真1 会場の様子。多数の親子連れが来場

本年度の来場者は347人で増加傾向にある。特に本年度はリピーターが3割となり、夏休みの恒例イベントとして定着しつつあることがうかがえた。新宿区や千代田区内の近隣小学校の児童が多く、地域の恒例のイベントとして認知されているようである。また、20代以上のうち86%が30代・



KAWAKAMI Sachi

学会では、土木広報センター土木の魅力グループやコンサルタント委員会市民交流研究小委員会に所属し、市民啓発・交流活動を推進している。

### ABSTRACT

Open Campus in JSCE (Japan Society of Civil Engineers) provides a learning opportunity for the public to increase their interest and understanding of civil engineering through various experiential programs, focusing on children who could be civil engineers. The event features direct communication between engineers and citizens. We believe that direct communications will increase citizens' interest in and understanding of civil engineering. We hope that by bringing together civil engineers with a variety of specialties, new attractions in civil engineering will be discovered, providing a unique "learning opportunity."



写真2 体験型プログラムでは土木技術者が直接市民へ説明

表1 2024年度専門委員会・グループが提供した体験型プログラム

| 専門委員会・グループ    | 提供する体験型プログラム   |
|---------------|--|
| 建設用ロボット委員会    | ・ラジコンバックホウでスーパーボールすくい  |
| 構造工学委員会       | ・アーチ橋模型～大きなつみきでアーチを作ろう！～<br>・振動模型～どれがいちばんゆれるかな？～   |
| コンサルタント委員会    | ・どぼくカルタでお勉強<br>・ソーラーホッパーレース<br>・液化化実験～えきじょうかの仕組みは？～<br>・水質調査～水と一緒に旅してみよう！～<br>・どぼくオリジナル缶バッジづくり |
| 地盤工学委員会       | ・水で斜面を動かす実験<br>・ナットでがけ崩れ実験   |
| 土木情報学委員会      | ・土工ってなんだ？～プログラミングでロボットを動かそう～<br>・橋ってなんだ？～ダヴィンチの橋を作ってみよう～                                       |
| トンネル工学委員会     | ・トンネル実験～つよいトンネルの形は？～   |
| 土木の日事業グループ*   | ・土木コレクションMINI展（ドボコレトレイン／リニア中央新幹線）  |
| 若手パワーアップグループ* | ・ポケドポカードで防災を知ろう  |
| 土木の魅力グループ*    | ・かんたん！手づくり防災～私には守るものがある～   |

※は土木広報センター所属の専門グループ

40代の子育て世代であり、親子で一緒にプログラムを体験する様子も見られた。

運営には、土木広報センターの他、市民交流活動の実績がある専門委員会が、毎年参加している。本年度は八つの専門委員会・グループと二つの大学研究グループから、総勢80人のスタッフが集まった(表1)。これも初回時と比べ倍増している。

## ターゲットは子供たち

このイベントで提供する体験型プログラムの多くは、小学校低学年～中学年の子供たちをターゲットとしたものである。主たるターゲットを子供に設定しているのは、幼少期から土木に興味を持つってもらうことで、将来の進路の選択肢の一つに土木業界を加えてもらうためである。通常、子供たちは、自身が知る職業の中から進路を決める。興味を持ったとしても、その職業に触れる機会がなければ選択できない。このイベントを機に、「こんなまちに住みたい」「この橋がカッコいい」「なぜトンネルは丸い？」など、一時でも土木に興味を持つ子供たちが増えれば、その中から、将来の素晴らしい土木技術者が生まれてくれるかもしれない。

またもう一つの理由は、子供たちと一緒に訪れる大人たちに対し、自身の住む街や身のまわりにある土木構造物について考える機会を提供できることにある。老朽化の進むインフラや地域の防災

力強化など、社会課題が山積する中、人々の価値観も多様化しており、今後は、受益者である市民自らがまちづくりについて考え、参画していくことが必要とされている。オープンキャンパスが、そのきっかけになればと期待している。

## 一貫した「対話」へのこだわり

このイベントを企画・運営する上で最も大切していることは、スタッフである土木技術者と来場する市民との直接的な「対話」である。

体験型プログラムの中で土木技術者が持つ正確な専門的知識や経験を、実感を込めてメディアを通じたものではないホンモノの声で来場者に直接伝えていく(写真2)。これにより、聞く側の知りたいうちに沿った情報提供も可能となり、来場者の関心や理解度も高まると考える。また話す側の技術者も、普段は直接触れることの少ない市民の意見や感覚を知ることができ、日々の業務や研究の中でより望ましい意思決定を図ることができるのではないだろうか。

「オープンキャンパス土木学会」には、これからも市民交流を実践する学会内のさまざまな専門委員会やグループに参加いただきたい。多様な分野から多彩な土木技術者が集うことで、この場が土木のテーマパークのようになれば、また新たな土木の魅力が生まれ、ここにしかない「学びの場」ができると期待している。